

1 はじめに

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大によって例年と違うスタートとなった。学校での生活様式も変わり、子どもたちにとって制限の多い中での生活を強いられるようになった。しかし、このような事態だからこそ、子どもたちができることを話し合い考えていくことは、自主的・実践的な態度が育つよい機会でもある。以下では、今年度の実践及び、本校の良さを活かした『1年生を迎える会』を中心に紹介する。

2 資料

(1) 1年生を迎える会について

4月下旬に、事務局委員会の児童が中心となって、「1年生を迎える会」を行った。例年は体育館で行っていたが、感染症拡大防止を配慮して、クラスに1台導入された電子黒板を使い「校内ライブ放送」の形で実施した。事務局委員の児童、1人1人が役割をもって取り組むことで、集団の中で自己を生かす体験ができた。また、コロナ禍であっても工夫を凝らすことで例年通りのプログラムで行うことができた。



校内ライブ放送での様子

(2) いじめノックアウト運動について

ア いじめノックアウト運動での全校の取り組み

2学期に各クラスでいじめ撲滅のための標語・スローガン作りを行った。道徳の時間や学級活動の時間に、いじめに関する題材などを取り扱い、話し合いを行った。また、各クラスが作成した標語・スローガンを全校に放送し、いじめの撲滅に対する意識を高めた。

イ 「いじめノックアウト」を呼びかけるポスター作り

1月初めの第7回委員会の中で、自分たちにできることはないかを話し合い、各学年の廊下に掲示できるポスターを作成した。学年の実態に合わせて分かりやすい言葉や絵などを工夫し、いじめ撲滅の意識付けを図った。



児童が作成したポスター

3 成果と課題

児童が選択する場面を設定することで、自主的に活動を行う児童が増えていった。また、自分たちが今抱える課題を取り上げることで、その課題を解決しようとする自主的・実践的な態度が育っていったと思う。感染症の影響により、今後も中止、延期せざるを得ない行事が考えられるが、できることは積極的に行い、児童一人一人が活躍する場面を作っていけるかがこれからの課題である。